

花高の50年を次の5つの期に分け、
年表とその当時のトピックスを中心に「花高の半世紀」を振り返る。

1. 草創期 昭和 36 年 <1961> ～ 昭和 42 年 <1967>
2. 発展期 昭和 43 年 <1968> ～ 昭和 53 年 <1978>
3. 充実期 昭和 54 年 <1992> ～ 平成 3 年 <1991>
4. 改革期 平成 4 年 <1992> ～ 平成 14 年 <2002>
5. 飛躍期 平成 15 年 <2003> ～ 平成 24 年 <2012>

1. 草創期

昭和36年<1961>～昭和41年<1966>(7年間)

本校の創立が決定されて準備の始まった時期から、建設工事の最終段階としてのプール竣工直前までを一区切りとした。

この時期は草創の気概に燃え、苦しい状況の中でも必死になって教育活動に邁進した時期である。

前 史

年 度	月 日	記 事	備 考
昭和 35 年 (1960)	(36 年) 3 月 24 日	2 月定例府会において、高校生急増対策として設立決定 (府立第 47 高等学校)	普通科 5 校 工業 4 校
昭和 36 年 (1961)	(37 年) 3 月 31 日	32,821㎡の校地を買収 (旧河内市大字 821 の 2)	
昭和 37 年 (1962)	7 月 29 日 10 月 11 日	第一期工事着工 9 月定例府会において、大阪府立花園高等学校と校名決定	創立記念日に制定
	(38 年) 2 月 1 日 2 月 15 日	大阪府立花園高等学校設立準備室設置 第一期工事竣工 (中央館完成)	

この地に府立高校を

近鉄奈良線沿線には当時、布施、河内、枚岡の3市が連なり人口約40万人を擁していたにも関わらず、府立の普通科高校は布施高校が設置されていただけであった。

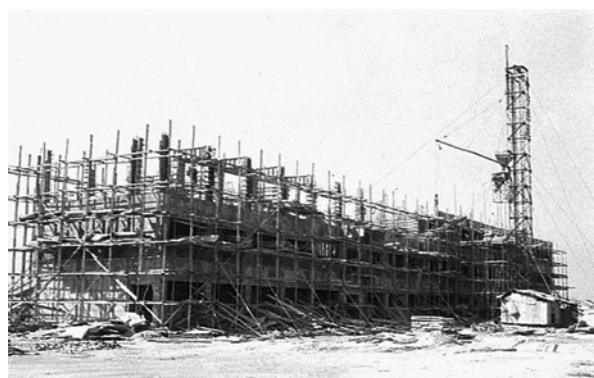
年々高まる高校進学率、ベビーブームによる若年人口の増加、交通難等地域住民の高校招致の願いはかなり根強いものがあつた。また、地域内の中学校でも将来予想される入試競争の激化緩和への期待も大きかった。

このような社会背景の中、府立花園高校が誕生したのである。

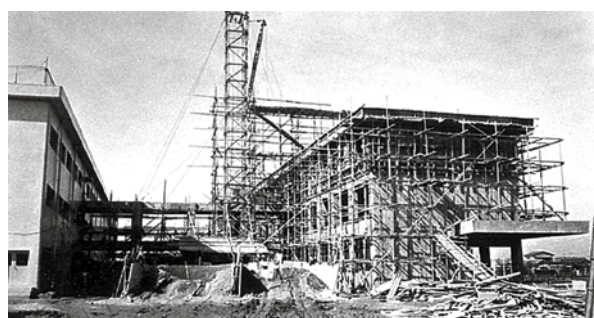
なお、この同じ年に誕生した府立高校は、普通科で花園・箕面・北淀・枚方・大和川(教育センター附属)の5高校、工業高校で藤井寺工業(藤井寺工科)・東住吉工業(東住吉総合)・和泉工業(和泉工科)・茨木工業(茨木工科)の4高校である。



3期生 池



中央館工事中 S37.9



第3～4期工事中 ～ S39.8

創 立

年 度	月 日	記 事	備 考
昭和 38 年 (1963)	4月1日	大阪府立花園高等学校設置 初代校長 山中俊夫 着任	開校 1 年目 職員 34 名 生徒 550 名
	4月1日	第一回入学式 (普通科 11 クラス)	
	7月 23 日	第二期工事着工	
	2月 29 日	第二期工事竣工	
昭和 39 年 (1964)	4月1日	定員 1100 名	
	6月 15 日	第三期工事着工 臨海学舎開始 (若狭高浜) 体育大会の開始	
	2月 28 日	第三期工事竣工 (管理棟完成)	
昭和 40 年 (1965)	4月1日	定員 1650 名	建物ほぼ完成
	6月 11 日	第四期工事着工	
	2月 25 日	第四期工事竣工 (体育館 2・3 階)	
	2月 25 日	第一回卒業式 527 名卒業	
昭和 41 年 (1966)	4月1日	定員 1600 名	
	6月 24 日	第五期工事着工 文化祭の開始	
	11月 15 日	第五期工事竣工 (体育館 1 階・食堂)	

創造の時

この時期は、教員・生徒・保護者その他花園高校に関係ある多くの人々が、学校として必要な様々なものをそれぞれに作り、その体裁を整えていった「創造の時」である。

校舎や運動場・体育館・コート等の建設といったハード面はある程度計画的に整えられ、カリキュラムや人事といった面では4月初末までには決定している。

しかし、実際の学校は生徒の活動がその主体である。当時の授業についての十分な記録はないが、時代の要請もあって、かなり厳しい内容で生徒を鍛えていたようである。

一方、その名称や形態が変われども、今日まで連綿と行われている球技大会・体育大会・文化祭などの行事が始まった時期でもある。また、部活動についても毎年2、3部ずつ創設されていった。(112,113 ページ参照)

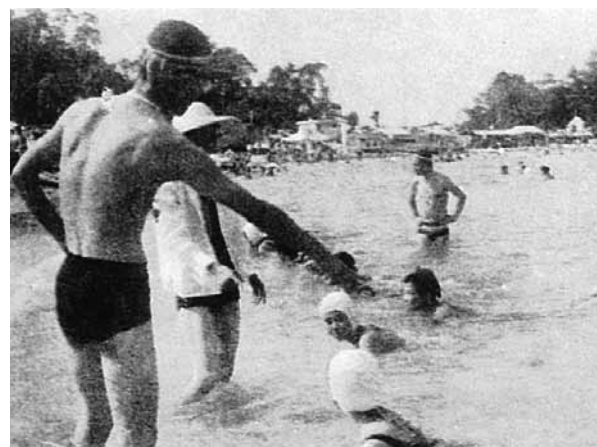
いずれにしても、常に建築工事の槌音の中での授業や活動であったと思われる。



2 期生 楠



第 2 期工事 ～ S38.2



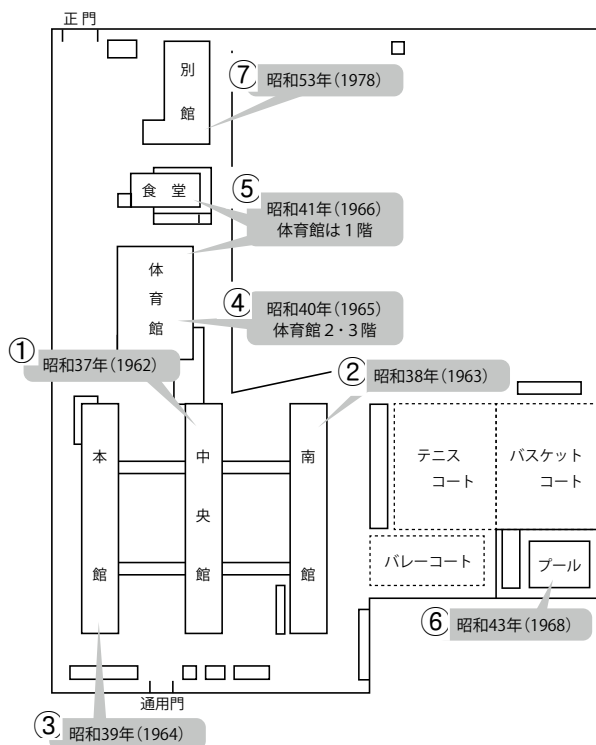
高浜臨海学舎 ～ S38. 夏

草創期(昭和36年<1961>～昭和41年<1966>)のTopics

工事

この当時の校舎配置図に、工事完成の順番とその時期を書き入れると、下図のようになる。

◎工事完成時期



入学式秘話

座談会の記録に「入学式にはよく雨が降り、校内放送での校長式辞」といった記述がある。第一回入学式は、中央館の北側(現在椰子の木のあるところ?北館との間の中庭?)で行われ、体育館の完成していない3期生までは、同様の状況であったと思われる。

なお、昭和38年の第一回入学式当日には、PTAの結成式も行われた。



入学式 (s38.4)

進路指導と生徒募集

各中学校が送ってくれた生徒をしっかりと育てたいという気持ちと、生徒間の学力差が大きい状況の元、7時間授業、早朝・放課後の補習などの態勢を組んだ。また、創立2年目の昭和39年度から学年に1つの増進組(特進クラス)を作って、生徒の学力向上に取り組んだ。生徒の側から見れば大変だったようであるが、1期生の進学結果では、一応の成果を上げることができた。

このような面での中学校の期待にも応えることができ、地域の高校として安定した地位が築かれるきっかけの1つとなった。



授業



実習

ラーメン屋台・未舗装道路

草創期の雰囲気を与えるエピソード2つ。

550名の定員に720名が集まった第一回入試の採点は、30余人の教職員で行わなければならない、遅くなくても終了しなかった。当時の山中校長がラーメンの屋台を引っ張ってこられたのだが、丼の数が足りず、食した後には洗ってもらって採点の間に順に食べたという。

また、道路が未整備のため生徒健康診断の検診車が入れず、近所の農家の軒先を借りたこともあった。

草創期の学校・生徒・職員



創立当時職員集合写真



一期生の卒業アルバムの編集後記「あしあと」には、花園高校一期生の思いが集約されている次のような一文がある（原文ママ引用）。

「大学進学者のある一人が、新設校はもうこりごりだという。就職者のある人が、花園高校でどこに出来たのと聞かれて…修学旅行の旅先でも、花園を他の花園と見ちがえられて不愉快な旅の一時を味わった。こうした新設という抵抗の中で、私ども一期生は一〇九五日間、母校のいしづえづくり、更に後輩たちへのよりよい道標をうち立てるために、内にも外にも心をくいだいた。



一期生の歌の誕生の底流に、その心根がくみとられよう。しかし一面、こわい上級生なり、先輩ににらまれることなしに、のびのびとした生活に終始し、それが時にやすらぎムードを醸成して、校長先生をはじめ、諸先生方に鞭打たれた。先生方も大変だったろうと深くお礼をもうしあげたい。（以下略）

草創期の生徒諸氏奮闘ぶりと、教員のかかわりようがうかがえる。



3期生 池



4期生 楠

2. 発展期

昭和42年<1967>～昭和52年<1977>(11年間)

プールができあがって本校の形が整った時期から別館ができる直前までが、花園の教育の基礎が完成する時期であると考え、これを次の一区切りとした。

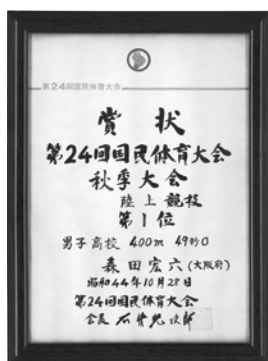
一方、学園紛争の波を受けて学校の雰囲気が大きく変わっていく時期であり、花園高校も服装自由化など教育の体制や方針も変化した時期である。

「花と緑のモデル校」

年 度	月 日	記 事	備 考
昭和42年 (1967)	4月1日	定員1550名	開校5年目
	6月11日	第六期工事着工	
	8月9日	第六期工事竣工(運動場・コート整備)	プール用地
	1月31日	南館南側1,951㎡の農地買収し校地拡張	
昭和43年 (1968)	4月1日	定員1480名 府立食品産業高校、本校敷地内に仮校舎設置	
	5月8日	プール工事着工	
	6月19日	食品産業高校移転	
	7月15日	プール工事竣工(臨海学舎廃止)	
昭和44年 (1969)	4月1日	定員1450名	
	4月4日	大阪府緑化推進委員会より表彰	
	5月20日	運動クラブ室完成 同和教育推進委員会の設置 スキー講習会(志賀高原)開始 耐寒訓練(1・2年生)開始	
昭和45年 (1970)	4月1日	定員1420名	
	9月27日	「生徒心得」を「生活の心がまえ」と「生活のきまり」に 第一回花高祭開催	
昭和46年 (1971)	4月1日	第2代校長 三宅孝明 着任 定員1390名	
	4月5日	昭和45年度優良学校として大阪府教育委員会から表彰	
	3月31日	昭和46年度学校教員統計調査優良校として文部大臣から表彰	

国体優勝

昭和44年陸上競技部3年生、森田宏六君が国民体育大会400m優勝の快挙を成し遂げる。



学園紛争の波

昭和43年(1968)～45年(1970)頃は世はまさに学園紛争の時代であ

る。花園高校においても「日の丸焼却」事件、6期生の卒業式答辞の際の河島英吾氏がギターで弾き語りなど、話題になったらしい。彼はその後歌手として活躍、彼の娘阿比留さん、亜奈睦さんも本校の卒業生である。

制服自由化要求問題が起こり、昭和47年自由化が決定された。また成績評価も100点法から10段階法にかわる。体育科中心の体育祭から生徒会中心の「花高祭」体育の部、文化の部になったのもこの時期である。「自治」の花園、原点の時代である。

10周年経過

年度	月日	記 事	備 考
昭和47年 (1972)	4月1日	定員 1370 名	開校 10 年目
昭和48年 (1973)	4月1日 7月1日 1月1日	定員 1350 名 服装自由化 第3代校長 曾我部亮雄 着任	
昭和49年 (1974)	4月1日	定員 1350 名	
昭和50年 (1975)	4月1日	定員 1370 名	
昭和51年 (1976)	4月1日	定員 1370 名	
昭和52年 (1977)	4月1日	定員 1360 名 「三ない運動」推進の開始	



服装の自由化

20周年誌の「生徒指導の歩み」には、次のようにある。
(一部、変更)

「48年7月1日より服装自由化が実施された。当時の制服制度は、以下の確認事項を得て改訂された。

①制服は残す。②高校生として品位ある服装。③校章は必ずつける。④他校の制服、他の団体の利益誘導になる服装は着用しない。

実施後1～2年は、4項目はなんとか守られていたが、その後校章をつける生徒が少なくなり、服装がカラフル、露出的なものが流行し、社会一般の服装に追従した傾向を示してきた。」

(76 ページ参照)



花高祭



ファイヤーストーム

発展期(昭和42年<1967>～昭和52年<1977>)のTopics

プール用地取得

山中校長の苦労話が座談会で取り上げられている。これを要約すると、次のようになる。

前々から校地を広げようとして地主との交渉をしてきたが、中々進展しなかった。昭和42年(1967)夏に食品産業高校(現、枚岡樟風高校)を創設するにあたり、花園高校としばらく同居させて欲しいとの大阪府教育委員会からの申し出があった。その交渉の中、無事用地買収交渉が進展し、買収がうまくいった。



「プール開き」(s43.8)

花高祭



第6回「花高祭」体育(s50.10.9)



第6回「花高祭」演技・展示(s50.10.29～28)

「達磨の絵」縁起

現在応接室に飾られている「達磨像」は、馬堀喜孝画伯が本校のため寄贈、5期生の卒業記念品として残されたものである。

実用的ではない芸術品を送ろう、という余裕が感じられる。

「東花園駅」物語 一駅名改称経緯一

昭和25年(1950)

ラグビー運動場前駅(臨) → ラグビー場前駅(臨)

昭和42年(1967)

ラグビー場前駅(臨) → 東花園駅(常設駅)

平成18年(2006)3月21日実施のダイヤ変更
準急と新設された区間準急の定期停車駅



昔の花園駅

学園紛争その後

スキー合宿、HR合宿、理科巡検(昭和54年よりは社会科巡検も実施)、芸術鑑賞など始まる。

「自由で穏やかな雰囲気+進学」という今につながる基本的なイメージの萌芽を見ることができる。



5期生 だるまの絵



6期生 藤棚

発展期の学校・生徒・職員



職員集合写真



7期生 楠(部室前)



9期生



12期生



10期生



13期生



11期生



14期生

一章 花高の今

二章 花高50年の歩み

三章 花高の未来

四章 花高教育の断面

五章 花高生活の断面

3. 充実期

昭和53年<1978>～平成3年<1991>(14年間)

図書館と視聴覚教室棟である別館が竣工し、ほぼ現在の校舎の様子が整った時期から、国際教養科ができる直前までを一区切りとした。

年 度	月 日	記 事	備 考
昭和 53 年 (1978)	4月1日	定員 1427 名	開校 16 年目
	7月8日	バレーコート、倉庫新築工事着工	
	9月5日	同工事竣工	
	10月13日	別館新築工事着工	
	2月1日	污水处理場新築工事着工	
	3月31日	別館新築工事竣工	
昭和 54 年 (1979)	4月1日	第四代校長 山田勝久 着任 定員 1541 名	
	6月4日	図書館移転オープン	
	7月24日	3階普通教室改修工事着工	
	10月22日	同工事竣工	
	8月23日	污水处理場新築工事着工竣工	
昭和 55 年 (1980)	4月1日	定員 1645 名 修学旅行研究指定校(旅行協会より感謝状)	
昭和 56 年 (1981)	4月1日	第5代校長 堀江馨 着任 定員 1692 名 陸上部、大畑泰子近畿大会出場。 体育館前噴水池(現ロータリー)埋められる	
昭和 57 年 (1982)	4月1日	定員 1598 名 新教育課程実施。バドミントン部、近畿大会出場。 生物部・地学部、学生科学賞受賞(以後毎年)。	開校 20 年目
昭和 58 年 (1983)	4月1日	定員 1598 名 ラグビー部、近畿大会出場。岩津嘉志選手国体へ。 吹奏楽部、府大会銀賞。バドミントン部、近畿大会出場。	
昭和 59 年 (1984)	4月1日	定員 1598 名 吹奏楽部、府大会銀賞。ソフトテニス部、近畿大会。 地学部、学生科学賞・内閣総理大臣賞。	

新館建設経緯

高校進学者の急増期を迎え、大阪府教育委員会より、昭和52年(1977)12月「昭和53年度から1クラス増やし、54年度には12学級にしたい」との意向が示される。花園高校周辺でも池島高校、盾津高校、柏原東高校、布施北高校、八尾南高校、八尾北高校、玉川高校などの新設高校が次々と開校した。

花園高校においてもクラス数増対策として教室数を確保すべく改築工事がすすめられた。その結果、現在の校舎、施設やその配置の原型がこの時期につくられることになった。(150ページ参照)



19期生 校歌石碑

四半世紀経過

年 度	月 日	記 事	備 考
昭和 60 年 (1985)	4月1日	第 6 代校長 本岡幸登 着任 定員 1692 名 地学部学生科学賞全国入選	開校 23 年目
昭和 61 年 (1986)	4月1日	定員 1704 名 噴水池跡に 22 期生卒業記念のケヤキ植えられる。 柔道部女子 2 名、近畿大会出場	
昭和 62 年 (1987)	4月1日	定員 1716 名 地学部、学生科学賞全国入選。	
昭和 63 年 (1988)	4月1日	定員 1728 名 地学部、学生科学賞・大阪府知事賞。	
平成元年 (1989)	4月1日	定員 1728 名	
平成 2 年 (1990)	4月1日	第 7 代校長 田中利和 着任 定員 1704 名 「心の相談」係設置、平成 8 年より「相談室」開設。	
平成 3 年 (1991)	4月1日	定員 1623 名 学習メニュー（数学）開始。 女子バスケット部、近畿大会出場。	

当時の部活動の充実、成果

上記年表にあるように、花園高校では部活動などの様々な分野において、近畿や全国レベルの成果があがった。



29 期生卒業記念品の展示ケース

(第 5 章 122 ページを参照)



27 期生 大時計



21 期生 大時計

充実期(昭和53年<1978>～平成3年<1991>)のTopics



噴水と築山

昭和56年(1981)、一期生の卒業記念として贈られた体育館前の噴水池はその後水漏れが起り、水道代がかさんで苦慮していた。ちょうどこの頃、体育の授業の後誰かを噴水池に放り込むというような生徒の悪ふざけが何度か起り、危険性を考えて噴水池は埋め立てられてしまった。

昭和61年(1986)、埋められていた体育館前の噴水池跡に22期生が卒業記念として、数本のケヤキを植樹し。そのケヤキもずいぶんと成長し、現在は紅葉の美しい築山となっている。



22期生 築山



23期生 水銀灯



25期生 案内板



27期生 大時計(裏)

理科巡検と社会科巡検

昭和46年から理科巡検が、昭和54年から社会科巡検が始まる。各々24回、16回にわたってフィールド

ワークの機会を生徒に与えることができた。平成10年前後にその役割を終えることとなった。



(110,111 ページ参照)

充実期の学校・生徒・職員



職員集合写真



耐寒登山



入学式



花高祭体育の部



4. 改革期

平成4年<1992>～平成14年<2002>(11年間)

国際教養科の設置から、創立40周年までを一区切りとした。この時期は、校内的には普通科・専門学科併置校としての体制作りに取り組んだ改革の時期である。一方、週休2日制・「家庭科」男女必修・教科「情報」・「総合的な学習の時間」実施等、教育界でも変化の激しかった時期であるといえる。

「国際教養科」

年度	月日	記 事	備 考
平成4年 (1992)	4月1日 11月6日	国際教養科設置 定員1471名 (普通科1391名国際教養科80名) 第2土曜が休みに、少人数展開授業(国語)開始 創立30周年記念式典挙行(厚生年金会館大ホール) 情報教育推進委員会の設置	開校30年目
平成5年 (1993)	4月1日 3月 3月29日	第8代校長 佐野 宏 着任 定員1240名 音楽室に冷房機を設置 イングリッシュキャンプ	
平成6年 (1994)	4月1日	定員1200名 新学習指導要領の実施 (「公民科」と「地歴科」、「世界史」必修、「家庭科」男女共修)	
平成7年 (1995)	4月1日 7月	定員1160名 第2、第4土曜が休みに 海外語学研修開始 異文化理解行事始まる	米、サン・フランシスコ

国際教養科

花園高校も創立30周年を迎え、充実発展の時期に入ってきた。花園高校創設期の戦後ベビーブームによる高校入学者急増期、および1970年前後の高校進学者急増にともなう多くの新設校設置の時代がおわり、高校入学者数は減少期を迎えた。その一方で公立高校も、各学校が特色ある学校作りに取り組む時期でもあった。教育の質の充実、一律の普通科教育だけでなく、社会のニーズにあった教育課程の検討がなされることとなる。

折しも国際情勢の多様化、教育の国際化の必要性が言われる中、本校においては、府下の8校とともに国際教養科2クラスが設置されることになった。充実した英語教育の展開はもちろんとして、普通科教育とは異なる国際教養科科目の設置、第2外国語(中国語、韓国朝鮮語、フランス語)の履修など独自の教育課程が展開されることとなる。しかし一方で、普通科とは異なる選抜方法によるための生徒の気風の偏り、一つの学校の中に二つの学科が存在することによる難しさな

ど問題も多く生まれてきた。このような問題を克服する中から、現在花園高校においては普通科もふくめ、異文化交流や国際理解教育がほぼ定着し、大きな特色ともなっている。

(88ページ～95ページ参照)



40周年

年度	月日	記 事	備 考
平成8年 (1996)	4月1日 3月3日	第9代校長 一色 尚 着任 定員1080名 国際教養科、海外修学旅行開始 本館3階に「相談室」設置 花高祭文化の部で表彰制度改革、グランプリ再演導入。 O-157食中毒流行、調理営業中止。	開校34年目 上海
平成9年 (1997)	4月1日	定員1000名 花高祭体育の部で表彰制度改革、団行進導入。 生徒名簿配布全廃。 放送部、全国大会へ。地学部、読売新聞社賞受賞。	
平成10年 (1998)	4月1日	定員1000名 本校初代 Web ページ公開。 文化祭で制服ファッションショー、生徒による投票。 国際教養科に帰国生枠で2名入学、以後続く。 柔道部、女子団体近畿大会出場。	
平成11年 (1999)	4月1日 10月	第10代校長 大空 浩 着任 定員1080名 全学年海外修学旅行。 アジア・スタディツアー開始 卓球部、個人・団体近畿大会出場。(この後、4年連続)	北京 韓国
平成12年 (2000)	4月1日 9月1日 11月	定員1000名 離机配置(1学年分)。情報ネットワークシステム導入 標準服見直しの開始。	
平成13年 (2001)	4月1日 6月14日 7月2日 10月28日	定員920名 標準服の変更(紺色ブレザー型) ボガード高校(米、ノースキャロライナ州)と姉妹校提携 南館大規模改修 国際教養科海外修学旅行、9・11テロ事件余波にて中止。 陸上部女子、800m近畿大会出場。	グアムの予定 3月に上海へ
平成14年 (2002)	4月1日 6月 7月1日 11月1日 12月	第11代校長 谷本 和廣 着任 定員1000名 学校完全5日制の実施 リックウィルマーディング高校と交流。 本館・中央館・体育館大規模改修。窓枠アルミサッシとなる。 創立40周年式典(本校体育館) 国教科グアム修学旅行、台風のため中止。 普通科は、予定通りオーストラリアで実施。 女子バレー部、近畿大会出場。 「急減期対策委員会」を発展的解消し「2002年委員会」に。	開校40年目 翌3月実施

改革期(平成4年<1992>～平成14年<2002>)のTopics

国際交流の取り組み

花園高校は国際教養科の設立を契機としてその教育内容の充実を図るとともに、国際交流を教育活動の柱の一つとしてその充実を図った。

その具体的な内容は、第3章4.「花高の未来を占う」、

第4章11.「国際教養科」12.「国際教養」に譲るが、他校に先駆けて特色化を図り、中河内地域での地位を確立していった時期である。



国際理解行事



交流行事



海外研修



海外修学旅行

新しき時代へ

日本は教育制度変革の時代に突入り、花園高校も様々な取り組みを行った。その中で、前ページの年表にもあるように、生徒の活動も活発で、多くの成果を上げた。

(第5章122ページ参照)

また、奇しくも国際教養科の設立と創立30周年が重なり、新しき改革の時代の幕開けを宣言することとなった。なお、創立30周年記念式典は厚生年金会館大ホールで行われ、本校6期卒業生河島英吾によるコンサートが開かれた。



記念式典プログラム



河島英吾オンステージ

国際教養科ガム修学旅行、連続御難

国際教養科のガム修学旅行は、平成13年(2001)は、9月11日のアメリカで貿易センタービルが破壊されるというテロ事件が起り、急遽中止。翌平成14年は、台風のため2年連続実施ができなくなり、計画変更することとなった。



改革期の学校・生徒・職員

職員集合写真



1992年 職員集合写真



2001年 職員集合写真

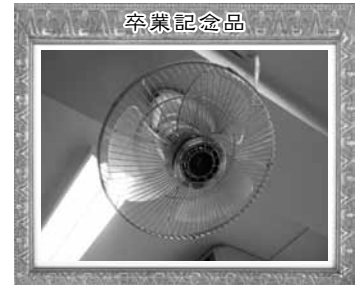
生徒



1996年 31期生入学式



2000年 35期生集合写真



34期生 教室扇風機



36期生 張り出し舞台



37期生 梅



38期生 テーブルベンチ



39期生 教室時計

5. 飛躍期

平成15年<2003>～平成24年<2012>(10年間)

平成11年の大阪府教育委員会「高校改革プログラム」を受けた、高校の制度改革・学校改革の時期以降を最後の一区切りとした。

平成24年に本校は創立50周年を迎えて「伝統校」の仲間入りを果たすことになるが、今後の生き残りをかけて、飛躍しなければならない時期となっている。

改革期

年度	月日	記 事	備 考
平成15年 (2003)	4月1日	定員960名 新学習指導要領の実施(「情報」、「総合的な学習の時間」) 大阪府の高校入試制度改革(前期入試と後期入試) 2学期制導入	開校41年目
平成16年 (2004)	4月1日	定員960名	
平成17年 (2005)	4月1日	第12代校長 田中 保和 着任 定員960名	
平成18年 (2006)	4月1日	第13代校長 喜多 久 着任 定員960名 第1回学校教育自己診断 数学I少人数展開授業開始	
平成19年 (2007)	4月1日	定員960名 校外学習検討委員会発足	
平成20年 (2008)	4月1日	定員960名 第1期学校耐震工事(体育館)	

改革の時

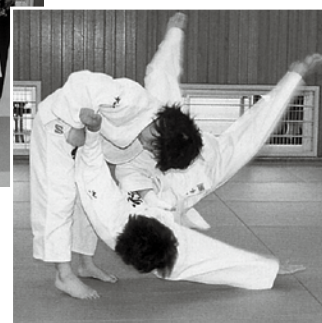
修学旅行の海外ブームもあり、英語科や国際教養科等の国際関係学科でなくても、国際交流や海外修学旅行、短期ホームステイを行うことが当たり前になりつつある時代となった。その中で国際教養科設置後10年が過ぎ、新たなページを開くべき時となった。

また、校外学習検討委員会が発足し、それまで修学旅行は学年独自で行先を決めていたのを、検討委員会が提案するという形となった。行先の固定化によりノウハウの継承が十分行えるようになった。

飛躍期前半の成果

国際教養科設置10年を超え、海外からの訪問客も増えていった。ニュージーランド使節団、韓国修学旅行生の学校見学、韓国高校教員による学校見学、オーストラリア使節団、中国高校生使節団などが相次ぎ教職員、生徒の交流が行われた。

部活動においても運動部では女子柔道でのインターハイ入賞、バスケットボール部の中央大会進出、ソフトボール部の優勝や野球部旧5学区大会優勝、文化部では地学部の日本地質学会奨励賞受賞などが目立った。



未来へ

年度	月日	記 事	備 考
平成 21 年 (2009)	4月1日	第 14 代校長 嶽 幸三 着任 定員 1000 名 (普通科 18 クラス・国際教養科 6 クラス) 情報部新設 第 2 回学校教育自己診断 第 2 期学校耐震工事 (南館および中央館)	開校 47 年目
平成 22 年 (2010)	4月1日	定員 1040 名 (普通科 20 クラス・国際教養科 6 クラス) 48 期生普通科 1 学級増募集 教職員へ PC1 台を各自に配布	
平成 23 年 (2011)	4月1日	第 15 代校長 明山富久吉 着任 49 期生普通科 1 学級増募集 イングリッシュ・フロンティア・ハイスクール指定 第 3 期学校耐震工事 (本館)	
平成 24 年 (2012)	4月1日 11月24日	第 16 代校長 藤田 豊 着任 新教育課程、理数の先行実施 創立 50 周年記念式典挙行 (八尾プリズムホール) 第 3 回学校教育自己診断	開校 50 年目 国際教養科設置 20 周年

「飛躍期」の開始は、学習指導要領の変更と 2 学期制への移行が重なった時期でもあった。そして、大阪府「教育改革プログラム」に従った府立高校の再編整備が進行し、花高としてどのように生き残っていくかの具体的な方策を考えるべき状況となった。平成 25 年からの新教育課程全面実施に向けての対応も含め、まさに「飛躍の時」となっている。

最近の状況

飛躍期の前半は改革期の勢いそのまま、活力が成果を生んでいた時期である。しかし、後半に入ると、よく言えば安定した教育の時期を迎え、あまり変化を求めない停滞の時期となる。残念ながら、生徒の自主的活動は徐々に小粒となり、全国レベル・近畿レベルの成果が少なくなっていく。

そのような中、花高祭文化の部の演劇などこれまでと同程度の成果を求めるためには、教員側の指導の努力がこれまでも増して必要な状況となっている。

一方、学習指導の成果の 1 つである進路の結果は、進学率など時代の状況もあって単純に比較はできないが、ほとんどの生徒が進学を希望し 2/3 の生徒が 4 年制の大学に現役で進学する現状がある。進学先の中心は中堅の私立大学で、地域の期待はその点にあ

るといえる。

平成 24 年度入学生 (50 期生) からは、理数先行の新学習指導要領が始まった。多様化する生徒の進路希望を叶えるべくつくられた教育課程であり、その成果には注目が集まる場所である。また、校舎耐震工事平成 23 年度で終了し、新生花園高校としてのスタートを切ることができた。



41 期生 和太鼓



飛躍期(平成17年<2005>～平成24年<2012>)のTopics

広報

今日は、教育内容・方法・成果を中学生・保護者・地域に広く伝える時代となっている。

(第3章「広報活動」参照)

中学生体験入学は、花園高校をより深く理解してもらうために年間3回行われている。国際教養科を対象とした夏休み実施の体験入学、11月頃に行われる普通科・国際教養科を対象とした体験入学と冬休みに行われる体験入学がある。

また、他校との交流としては、一時期玉川高等支援学校との交流が花高祭体育の部・文化の部や玉川高等支援学校文化祭において行われた。

さらに、毎年のように「出前授業」を近隣の小・中学校からの要請で、理科(地学分野)や英語(NETも参加)で行われた。また、「なにわ塾」や一般に広く広報してフィールドワークを中心とする「地学教養講座」を年数回実施している。



国際交流

国際教養科の設置に伴い多くの使節団が花園高校での見学や交流を行った。

(88ページ～95ページ参照)

交流は2002年より始まっており、高校生や各国教員が訪れている。初めは学校見学だけであったが、回を重ねるにつれて生徒間の交流も増えダンス部やフォークソング部が歓迎公演を行ったり、授業を一緒に受講したり、教員集団が本校の授業を受講したりしている。また、特別活動として全生徒が「国際交流行事」として、日本で学ぶ留学生との交流活動も行われている。



耐震工事

大阪府の耐震工事が本校でも平成21年度から始まり、平成23年度までの3年間を要している。

(151ページ参照)



校外学習検討委員会発足後の修学旅行の記録

平成19年度に校外学習検討委員会が発足し、花園高校における修学旅行のあり方を検討し、平成20年度入学生以降委員会が提案する修学旅行案に従い行き先を決定することとなった。

基本的には普通科は国内へ、国際教養科は海外へ行くこととなり、3年間は行き先を変更しないこととしている。

平成20年度以降の修学旅行の行き先は、次の様になっている。

	普通科	国際教養科
平成20年度	北海道	グアム
平成21年度	北海道	グアム
平成22年度	北海道	グアム
平成23年度	宮古島	グアム
平成24年度	九州	グアム

(107ページ参照)



飛躍期の学校・生徒・職員

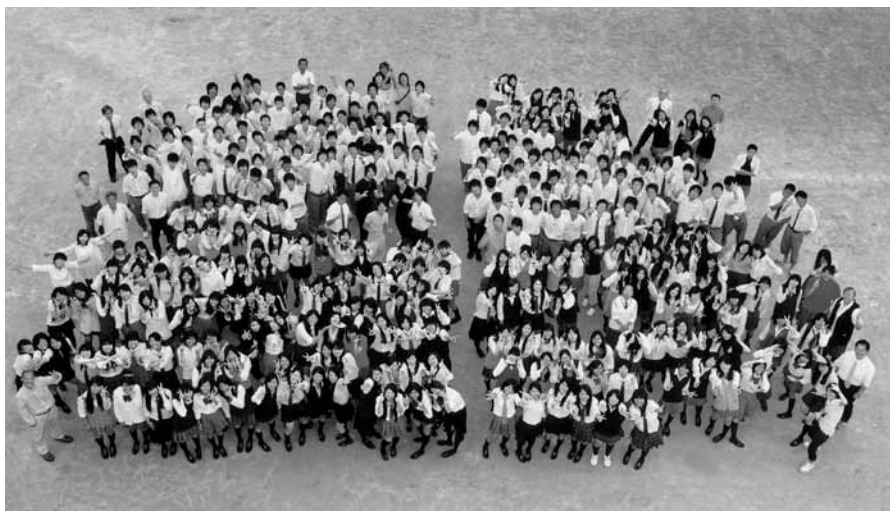
職員集合写真



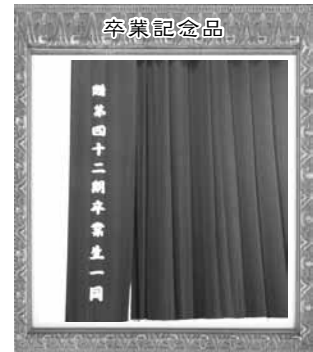
2012年 職員集合写真

校長	藤田 豊	
教頭	戸田 徹	
国語	秋長幸依 乾みゆき 上村厚貴	
	江口達也 大村裕士 小倉恭子	
	押木文孝 川崎典子 長谷川登志子	
	大和龍彦	
社会	大野木好江 齊藤優子 新谷昭二	
	田中敬久 中谷英夫 森川智史	
	渡邊 登	
数学	岳崎信夫 尾崎憲一 梶本好晴	
	田口健司 田中賢一 角川純一	
	土居一裕 深瀬隆司 古野 弘	
	三島寿之	
情報	田中希絵 中田知里	
理科	鎌田誠一 田中敬太 西田絵美	
	西野泰広 藤井祥子 藤田正紀	
	村上陽子 山口真秀	
保健体育	小澤千晴 柿 秀樹 坂口裕美	
	佐野正巳 洲 謙 啓 榛田雅人	
	森田 彰	

生 徒



2012年 47期生集合写真



42期生 緞帳

芸術	藤川恵子	
英語	味岡史子 任喜久子 梅澤寛明 岡本肇子	
	芝原 勝 田中克彦 中原 剛 永易佳世子	
	名倉尚子 春田理恵 森本奈々 米元 稔	
養護	高山由香里 藤澤路子	
実習教員	小川サユリ 勝間妙子	
事務長	田中功治	
主査	杉元三郎	
副主査	熊田博子	
技師	屋鋪正治	
NET	David Gardner Sohrab Nahreini	
TNET	Brian Bomediano	
非常勤講師	杉田宏子 畑恵美子 清水 翼 小山 優	
	小埜 隼 窪田和真 葛原光代 西野雪絵	
	池田隆夫 竹田 貢 石川裕美 秋田和子	
特別非常勤講師	袁 冬梅 申 麻美 神田マリアンジュ	
事務補助	松浦幸子 西田早智子	



40期生 カラーテント



45期生 朝礼台

Column 卒業記念の碑・記念品等

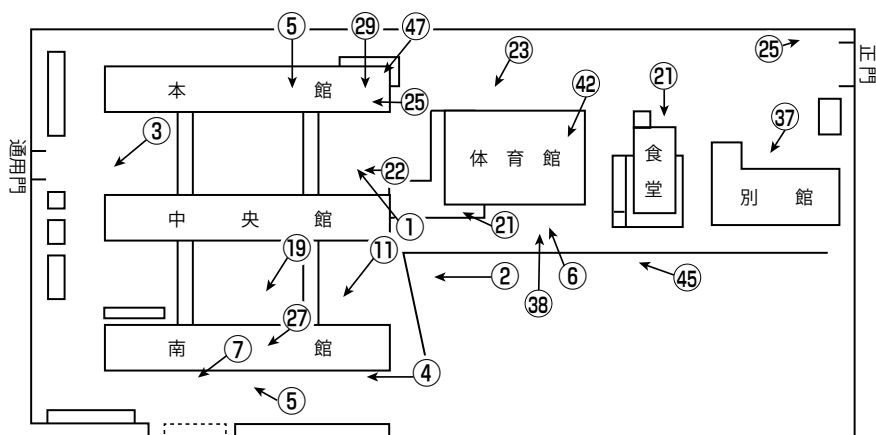
現在校内で確認できる卒業記念の碑やその際の植樹、また卒業記念品は次の通りである。

期	卒業記念品	場 所
1	玄関横噴水池(現築山)	体育館前
2	楠	グラウンド入口
3	中庭池	技師室裏
4	楠	部室前最東
5	楠 馬堀画伯揮毫額	部室前、応接室
6	藤棚	グラウンド北端
7	楠 校旗	部室前最西
8		
9		
10		
11	楠	調理実習室北
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19	校歌石碑	教室棟裏中庭
20		
21	大時計1、冷水器2	食堂北側
22	築山(元噴水池)	体育館前中庭
23	水銀灯、冷水器1、屏風一双	体育館北側
24		
25	校内案内板	正門・玄関

期	卒業記念品	場 所
26		
27	大時計	南館グラウンド側壁
28		
29	展示ケース	玄関
30		
31		
32		
33		
34	教室扇風機	各教室
35	舞台一文字幕、袖幕	
36	張り出し舞台	体育館舞台
37	梅の木	図書館北
38	テント、ベンチ	藤棚の下
39	教室時計	各教室
40	カラーテント(4張り)	グラウンドで使用
41	和太鼓2基	生徒会
42	舞台緞帳	体育館舞台
43	ワンタッチテント	
44	式典用紅白幕	体育館
45	朝礼台・テント	グラウンド
46	舞台階段(上・下手)	体育館舞台
47	校訓プレート	玄関外壁
48	現3年生	
49	現2年生	
50	現1年生	

注、各記念品の写真は、本章の各所にカットとして掲載した。(右下の46期、47期のような形の枠で示した)

◎碑等の位置は、次の地図の通りである。(番号が期を表す。)



46期生 舞台階段



47期生 校訓プレート